

「女子大学」に関する意見の因子分析 —女子学生への調査と他大学調査との比較—

Factor Analyses of Female Students' Opinions on "Women's Universities" :
In Comparison with Other Surveys

安 東 由 則*

ANDOH, Yoshinori

目次

1. はじめに
2. 調査の概要
3. 分析
 - (1) 武庫川女子大学に入学した理由の検討
 - (2) 「女子大学」に入学した理由
 - (3) 武庫川女子大学と「女子大学の特徴」
 - (4) 武庫川女子大学での「学生生活」
4. おわりに

* 武庫川女子大学教育研究所・研究員、文学部教育学科・准教授

1. はじめに

本論文は、本学4年次生を対象として2006年2月に実施した「武庫川女子大学についての意見調査」の分析である。このアンケート調査については既に『研究レポート』36号にて、調査結果を報告した（安東他 2006）。その報告では、アンケート項目を学科別に単純集計するとともに、自由記述の内容をまとめて示す一次的な分析を行ったのみで、十分な分析ができなかった。よって、本学の教育・支援環境全般を捉え直し、今後への示唆を得るとともに、女子大学としての「よさ」についても詳細に把握するために、さらなる分析を行うこととした。

今回の分析は、以下のような観点から実施する。アンケートの軸をなす4つの項目群、すなわち①「武庫川女子大学に入学した理由」、②「共学ではなく女子大学に入学した理由」、③「女子大学の特性の武庫川女子大学へのあてはまり」、④「武庫川女子大学における大学生活の振り返り」に関してそれぞれ因子分析を実施し、その特徴を詳細に検討する。さらに、「女子大学」に関する他の調査結果との比較・検討を行う。上の①に関しては、本学4年次生の保護者アンケート（2006年9-10月実施）において「子どもの武庫川女子大学への入学理由」を尋ねており、これについても因子分析を実施し、学生の結果と比較する。さらに、①と②については、お茶の水女子大学と奈良女子大学による卒業生調査（お茶の水：2000年12月実施、奈良女子：2000年12月-2001年1月実施）において、類似の質問項目があるので、国立女子大学との比較を試み、その異同を検討していく。そして最後に、④で得られた大学生活の規定要因を独立変数、大学生活の充実度を従属変数とする重回帰分析を行い、その影響要因について分析を行う。

2. 調査の概要

武庫川女子大学の卒業学年を対象とするアンケート調査は、教育研究所の共同研究「女子大学の存立意義に関する研究（2004～2006年度）」の一環として行われたものである。4年間を振り返り、武庫川女子大学での学生生活全般を、さらには女子大学としての武庫川女子大学を評価してもらい、今後の本学のあり方を考える参考とすることを調査の目的とした。

調査結果の詳細については、先に述べた『『女子大学』に関する女子学生の意見調査』（安東他 2006）として『研究レポート』36号、あるいは『『女子大学の存立意義に関する研究』報告書』（友田・安東 2007）において報告している。表1には調査対象者の属性など、調査概要を示しておく。

表 1. 武庫川女子大学調査対象者の属性およびフェイスシートの概要

(単位：％)

所属学科	日本語 日本文学	英語文化	教育	健康・ スポーツ科学	心理・ 社会福祉
	8.4	10.3	17.7	9.7	10.0
	生活環境	食物栄養	情報メディア	音楽	薬学
	5.2	13.1	9.1	3.1	13.1
出身地	兵庫	大阪	他近畿	その他	
	40.6	32.3	10.7	16.4	
通学場所	自宅	本学寮	その他		
	74.4	1.4	24.2		
出身高校設置者	私立	国公立			
	36.8	63.2			
出身高校の形態	本学附属	他女子校	共学	その他	
	18.7	12.5	68.3	0.4	
本学志望順位	第一志望	第二志望	第三志望以下		
	56.2	21.3	22.5	*いずれも合計100％	
女子大・共学志望の別	女子大	共学大	どちらでも		
	17.1	34.5	48.3		
大学生生活の充実度	充実	まあまあ充実	何とも言えず	あまり充実せず	充実せず
	31.7	50.3	13.1	4.1	0.9

調査対象 2005年度武庫川女子大学4年生（2006年2月6日のガイダンス出席者）

調査期間 2006年2月6～10日

有効回答数 1,356名

3. 分析

以下の分析では、先に挙げた4つの質問項目群ごとに、他調査との比較を交えながら因子分析を中心とする検討を行う。なお、分析にはSPSS14.0Jを使用した。因子分析については、全て主因子法・プロマックス回転法を用いた。

(1) 武庫川女子大学に入学した理由の検討

1) 本学学生へのアンケート

まず、「武庫川女子大学へ入学した理由」について検討する⁽¹⁾。「あなたが『武庫川女子大学』に入学した理由について、あなたの気持ちに近いものを選んで下さい」として、21項目からなる質問に、「かなりあてはまる(5)」～「まったくあてはまらない(1)」の5件法で回答を求めた。全体で因子分析を行った結果、5因子（固有値1.0以上）を得たが、第3因子（Q11、Q16、Q18～20）の解釈が難しく、他因子の負荷量が高い項目も

あったので、4 因子指定として実行した。その結果が表 2 である。第 1 因子は「教育に力を入れていると聞いた」「自分の学びたい学科や専攻がある」「様々な資格や免許を取れる」「就職率がよい」などからなっているので、「教育内容・環境」因子と命名した。次の第 2 因子は「家族にすすめられた」「名前を知られた大学」「阪神間の都市部にある」「伝統がある」からなるので「知名度・伝統」因子、第 3 因子は「附属高校の出身」「得意の科目で受験」「推薦入試があった」などから構成されるので「受験」因子、最後の第 4 因

表 2. 「武庫川女子大学への入学理由」の因子分析結果（全体） 4 因子指定 n = 1297

	教育内容・ 環境	知名度・ 伝統	受験	通学 (経済性)	肯定的 回答の%*
Q 4 教育に力を入れていると聞いたから	0.698	-0.008	0.024	0.077	36.4
Q 2 自分の学びたい学科や専攻があったから	0.666	-0.256	-0.159	-0.086	91.2
Q13 様々な資格や免許を取ることができるから	0.659	-0.106	0.023	-0.052	60.3
Q 3 就職率がよいと聞いたから	0.614	0.056	0.018	-0.065	55.1
Q21 幅広い教養を身につけることができるから	0.591	0.171	0.088	0.127	29.3
Q12 施設や設備がきれいで充実していると思ったから	0.438	0.190	0.046	-0.030	58.0
Q 1 建学の精神に共鳴したから	0.320	0.173	0.160	0.156	6.5
Q19 家族にすすめられたから	-0.242	0.673	0.019	0.074	35.6
Q 7 よく名前を知られている大学だったから	0.229	0.551	-0.077	-0.197	47.9
Q18 阪神間の都市部にあるから	-0.035	0.522	-0.137	0.001	41.8
Q 6 伝統がある大学だったから	0.286	0.470	0.021	-0.035	33.2
Q15 総合的で大きな大学であるから	0.242	0.461	-0.109	-0.005	41.0
Q20 教師にすすめられたから	-0.055	0.398	0.052	0.275	29.1
Q 5 自分の偏差値にあう大学だったから	0.099	0.291	-0.275	-0.050	51.8
Q 9 武庫川女子大学附属高校の出身だから	-0.202	0.191	0.648	-0.162	18.3
Q17 自分が得意の科目で受験することができたから	0.049	0.301	-0.627	0.140	51.0
Q10 出身高校にこの大学への推薦入試があったから	0.044	0.056	0.504	0.138	24.8
Q14 共学大学に合格できなかったから（反転*）	0.279	-0.233	0.446	-0.074	23.9
Q11 有名な先生、学びたい先生がいたから	0.146	0.185	0.276	0.178	4.9
Q16 大学の学生寮があったから	-0.029	0.117	-0.094	0.569	4.1
Q 8 自宅から通学できる距離にあったから	0.038	0.355	0.123	-0.509	55.8

因子抽出法：主因子法 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法（以下同様）

因子相関行列

因子	1	2	3	4
1	1	0.643	0.180	0.089
2	0.643	1	0.301	0.072
3	0.180	0.301	1	0.170
4	0.089	0.072	0.170	1

注：各因子を構成する項目の選定では、因子負荷量0.350以上を基準とした。以下の因子分析も同様である。

子は「学生寮があった」「自宅から通学できる距離にある（－）」2項目からなるので「通学」因子⁽²⁾とそれぞれ命名した。この四つが武庫川女子大学への入学理由を規定する要因である。

上は本学への入学者全体を対象とする分析であるが、附属高校出身者とそれ以外からの入学者とでは、入学理由は同じではないだろう。武庫川学院では、中学から大学までの女子一環教育を掲げており、附属高校卒業生のほとんどが本学へと進学する。附属中学・高校への入学者は、武庫川女子大学への進学を前提として入学をしているのであるから、入学理由は異なると考えられる。そこで、附属高校からの入学者とそれ以外の高校からの入学者に分けて因子分析を行い、得られた因子の比較を行うこととする。附属出身者は全体の18.7%（254名）、それ以外は81.3%（1141名）であった（表1参照）。

まず附属出身者の因子分析から見ていく。分析においては、附属出身者にはあてはまらない質問項目を削除した。すなわち、Q 5「自分の偏差値に合う大学」、Q10「出身高校に推薦入学あり」、Q14「共学大学に合格できなかった」、Q16「大学の学生寮があった」、Q17「自分の得意科目での受験」の5項目を除いた16項目を用いて分析を行った。結果は表3に示すとおりである。

5因子が抽出された。第1因子、第2因子は全体と同じく、それぞれ「教育内容・環境」因子、「知名度・伝統」因子とした。第3因子は、全体では第2因子を構成していたQ19「家族にすすめられた」、Q20「教師にすすめられた」が独立して形成されており、「周囲のすすめ」因子と命名した。次の第4因子はQ11「有名な先生、学びたい先生がいる」、Q 1「建学の精神に共鳴」から成っているが、負荷量はQ11（0.752）がQ 1（0.468）よりかなり大きく、Q 1は第2因子の負荷量も0.384と大きいので、「教員の魅力」因子としておく。第5因子はQ 8「自宅から通学できる距離」、Q18「阪神間の都市部にある」であり「地元・自宅」因子と命名する。

次に、附属以外の高校からの入学者（以下、外部入学者）の因子分析に際しては、Q 9「附属高校の出身であるから」を除いた。その結果が表4である。四つの因子が抽出された。各因子を構成する質問項目は、外部入学者が8割を占める全体での因子分析で示したものとほぼ同じであったので、同じ因子名をつけた。附属高校出身者との比較でも、ともに「教育内容・環境」が第1因子、「知名度・伝統」が第2因子であることに変わりなく、この二つが共通して本学入学理由の核だと言えよう。これに対し、附属の分析から外した質問項目が第3因子を構成し、これを「受験」因子と名付けた。また附属出身者において単独に第4因子「教育の魅力」を構成したQ11「有名な先生、学びたい先生がいる」は、外部出身者ではどの因子においても負荷量が十分に大きくなく、Q 1「建学の精神に共鳴」についても同様の傾向が認められる。これら二つの項目は、附属以外の外部出身者において、入学理由としての位置づけは大きくなく、曖昧である。

表3. 附属入学者の「武庫川女子大学への入学理由」の因子分析結果

n = 237

	教育内容・ 教育環境	知名度・ 伝統	周囲の すすめ	教育の 魅力	自宅・ 地元
Q2 自分の学びたい学科や専攻があったから	0.802	-0.055	-0.159	0.060	-0.101
Q13 様々な資格や免許を取ることができるから	0.755	-0.082	0.062	-0.024	-0.002
Q4 教育に力を入れていると聞いたから	0.702	-0.004	-0.103	0.178	0.058
Q3 就職率がよいと聞いたから	0.595	0.177	-0.088	-0.118	0.073
Q21 幅広い教養を身につけることができるから	0.569	0.087	0.315	-0.043	-0.063
Q12 施設や設備がきれいで充実していると思ったから	0.558	0.045	0.051	0.012	0.108
Q7 よく名前を知られている大学だったから	-0.050	0.953	-0.067	-0.007	0.041
Q6 伝統がある大学だったから	0.112	0.676	0.031	0.092	0.023
Q15 総合的で大きな大学であるから	0.260	0.374	0.221	-0.072	-0.033
Q20 教師にすすめられたから	-0.073	-0.137	0.679	0.206	-0.009
Q19 家族にすすめられたから	-0.044	0.137	0.674	-0.121	-0.081
Q11 有名な先生、学びたい先生がいたから	0.105	-0.062	0.027	0.752	-0.009
Q1 建学の精神に共鳴したから	-0.047	0.384	-0.003	0.468	-0.046
Q8 自宅から通学できる距離にあったから	-0.055	0.128	-0.072	0.005	0.742
Q18 阪神間の都市部にあるから	-0.006	-0.108	0.355	0.002	0.497
Q9 武庫川女子大学附属高校の出身だから	0.156	-0.055	-0.147	-0.172	0.209

因子相関行列

因子	1	2	3	4	5
1	1	0.668	0.542	0.389	0.486
2	0.668	1	0.432	0.264	0.430
3	0.542	0.432	1	0.311	0.455
4	0.389	0.264	0.311	1	0.271
5	0.486	0.430	0.455	0.271	1

表4. 外部（附属以外）入学者の「武庫川女子大学への入学理由」の因子分析結果 n = 1059

	教育内容・ 環境	知名度・ 伝統	受験	通学 (経済性)
Q13 様々な資格や免許を取ることができるから	0.752	-0.229	0.079	0.003
Q4 教育に力を入れていると聞いたから	0.644	0.061	-0.036	0.047
Q21 幅広い教養を身につけることができるから	0.642	0.172	-0.016	0.139
Q2 自分の学びたい学科や専攻があったから	0.606	-0.293	0.015	-0.130
Q3 就職率がよいと聞いたから	0.554	0.097	-0.011	-0.068
Q12 施設や設備がきれいで充実していると思ったから	0.469	0.142	0.060	0.011
Q1 建学の精神に共鳴したから	0.340	0.227	-0.128	0.115
Q19 家族にすすめられたから	-0.268	0.675	0.101	0.049
Q7 よく名前を知られている大学だったから	0.045	0.660	-0.011	-0.328
Q6 伝統がある大学だったから	0.160	0.571	-0.053	-0.114
Q20 教師にすすめられたから	-0.108	0.514	-0.079	0.194
Q15 総合的で大きな大学であるから	0.209	0.427	0.132	-0.013
Q18 阪神間の都市部にあるから	0.054	0.360	0.305	0.056
Q11 有名な先生、学びたい先生がいたから	0.202	0.228	-0.140	0.156
Q17 自分が得意の科目で受験することができたから	0.105	0.112	0.564	0.124
Q10 出身高校にこの大学への推薦入試があったから	-0.035	0.270	-0.535	0.067
Q14 共学大学に合格できなかったから（反転*）	0.272	-0.105	-0.381	-0.076
Q5 自分の偏差値にあう大学だったから	0.099	0.158	0.267	-0.038
Q16 大学の学生寮があったから	0.056	0.157	0.137	0.630
Q8 自宅から通学できる距離にあったから	0.084	0.165	0.045	-0.480

因子相関行列

因子	1	2	3	4
1	1	0.670	-0.035	-0.098
2	0.670	1	-0.020	-0.042
3	-0.035	-0.020	1	-0.326
4	-0.098	-0.042	-0.326	1

2) 本学学生保護者へのアンケート

2006年度4年次生の保護者に対して行ったアンケート（2007年1月実施）⁽³⁾では、「お子さまが本学へ入学されたのはなぜだと思われますか」として学生アンケートと同様の20項目を示し、同じく5件法で回答を求めた（詳細は、安東他 2007を参照）。ただし保護者を対象とするので、入試に関する項目を幾つか削除し、代わりに「警備など安全面に力を入れている」、「学生への生活指導が適切に行われている」、「結婚に有利」、「家族・親戚に本学出身者がいる」といった項目を入れるなどした。ここで尋ねているのは、子どもと受験校選びをする中で、娘が受験を決めた理由だと保護者が考えた理由であるが、結果的には、娘が本学を受験し入学してほしいと考えた保護者の思いも含まれる点に留意が必要である。

ここでは娘の出身校の別（附属、附属以外）で対象を分けず、全体での因子分析のみを行った。結果は表5に示すとおりである。

表5. 保護者が考える娘の「武庫川女子大学への入学理由」の因子分析結果 n = 647

	教育・指導 等の環境	知名度・ 伝統	経済性・安心 等の合理性	附属・ 同窓
4. 教育に力を入れていると聞いたから	0.867	-0.030	-0.060	-0.051
3. 就職率がよいと聞いたから	0.803	-0.026	-0.178	-0.068
13. さまざまな資格や免許を取得できるから	0.689	-0.093	0.063	-0.072
11. 学生への生活指導が適切に行われていると聞いたから	0.532	0.039	0.232	0.105
2. 本人が入学を希望する大学であったから	0.489	0.095	-0.149	-0.012
12. 施設や設備がきれいで充実していると思ったから	0.466	0.096	0.067	0.139
8. 幅広い教養を身につけることができると思うから	0.420	0.416	0.092	-0.096
7. 名前を知られている大学だから	-0.106	1.049	-0.130	-0.108
6. 伝統がある大学だから	0.059	0.771	0.049	-0.076
10. 社会一般の評判がよいから	0.235	0.517	0.025	0.051
15. 総合的で大きな大学だから	0.165	0.461	0.005	0.100
14. 入試の難易度が本人の学力に合っていたから	0.136	0.284	-0.036	-0.068
16. 学生寮が完備されているから	-0.121	-0.105	0.767	-0.054
17. 警備など安全に力を入れていると思ったから	0.237	-0.013	0.607	0.023
1. 自宅から通学することができるから（*反転）	-0.112	-0.115	0.592	-0.430
18. 結婚に有利だと思うから	-0.061	0.241	0.452	0.175
19. 情報処理教育に力を入れていると聞いたから	0.100	0.121	0.413	0.133
20. 高等学校の教員にすすめられたから	-0.159	0.038	0.306	0.266
9. 本人が武庫川女子大学附属高校の出身だから	-0.076	-0.209	-0.019	0.710
5. 本人の母親や姉、親戚などに本学の出身者がいるから	-0.032	0.035	0.034	0.347

因子相関行列

因子	1	2	3	4
1	1	0.762	0.508	0.487
2	0.762	1	0.490	0.544
3	0.508	0.490	1	0.328
4	0.487	0.544	0.328	1

4 因子が抽出された。第1因子から順に「教育・指導等の環境」因子、「知名度・伝統」因子、「経済性・安心等の合理性」因子、「附属・同窓」因子と命名した。第1、第2因子はともに学生アンケートの結果と同じ順番、同様の質問項目からなり、入学理由の大きな軸となっている。次の第3因子は新たな因子で、因子負荷量が多い順に、Q16「学生寮の完備」、Q17「警備など安全面に力を入れている」、Q1「自宅からの通学」、Q18「結婚に有利」といった雑多な項目からなる。命名は難しいが、「経済性・安心等の合理性」としてみた。これらの項に「あてはまる」と答えた比率は少ない。「警備などの安全面の配慮」の項目はむしろ保護者としての意識を重視した項目であるが、「かなりあてはまる」5.5%、「ややあてはまる」21.2%の比率であった。最後の第4因子は、「娘が附属出身」と「母や親戚などに本学出身者がいる」の2項目からなる「附属・同窓」因子である。

3) お茶の水女子大学調査・奈良女子大学調査との比較

お茶の水女子大学と奈良女子大学は2000年～2001年に、「国立女子大学の将来像に関する調査」を卒業生・修了生に対してそれぞれ実施した。お茶の水女子大学は3,237名（学部名、院名）、奈良女子大学は3,235（学部2,197名、院1,038名）名を有効回答とする大規模な調査である。これらの調査は、各大学の受験理由、「女子大学」の受験理由を尋ねており、本学アンケート調査はそれらとの比較を念頭に、その質問項目を参考として質問紙を作成した。しかしながら、本学と国立2女子大学との調査には少なからず違いもある。上記の調査は2000年の実施で、戦後の卒業生を対象として幅広い年齢層を対象にしているのに対し、本学調査は5年後の2006年に実施したもので、卒業年次生のみを対象としている。よって、対象者の年代に差異があり、単純には比較できないのであるが、国立女子大学と対比することで、私学である本学の特徴、女子大学としての特性やよさを検討することができると考えた。（2国立女子大学調査の大学院修了者を除き、学部卒業生のみを比較対象とした。）

それぞれのアンケートでは各大学の受験理由について尋ねているが、まずここでは、これらの項目の因子分析結果を示している奈良女子大学調査から概観していく。先にも述べたように、このサンプルは1953年以降2000年までの新制の学部卒業者という幅広い世代を対象としており、本学の4年次生のみを対象としたものとは異なる点に注意を要する。その因子分析結果は表6に示す通りである（奈良女子大学の因子分析は、因子抽出法：主因子法、回転法：ヴァリマックス回転による）。

6つの因子が抽出され、命名されている。第1因子は「国立女子大学の教育実績」と命名された因子で、「国立女子大学だから」「女子教育に実績がある」「伝統と歴史」「奈良女子大学への憧れ」などの項目からなる。第2因子は「大学院があるから」「キャンパスの雰囲気」「女性学関連の授業」の項目からなる「教育環境充実」因子、第3因子は「教師

表6. 「奈良女子大学を受験した理由」の因子分析結果*

	国立女子大 の教育実績	教育環境 の充実	社会的 評価	居住環境	就職志向	学力関連	1991~2000 コホート(%)
国立女子大学だから	0.752	-0.023	0.116	0.077	0.027	0.025	43.8
女子教育に実績があるから	0.747	0.154	0.188	0.077	0.159	-0.076	31.7
伝統と歴史があるから	0.670	0.232	0.047	0.082	0.192	-0.022	72.5
奈良女へのあこがれ	0.659	0.371	-0.033	0.122	0.074	0.054	46.3
国立は社会的評価が高い	0.598	-0.142	0.220	-0.089	0.128	0.335	71.4
教育環境充実	0.473	0.471	0.029	0.046	0.301	-0.057	39.3
教養を身につけるのに適当	0.455	0.316	0.291	0.028	-0.102	0.072	38.6
大学院があるから	-0.068	0.646	0.253	-0.172	-0.005	0.110	11.8
キャンパスの雰囲気がよい	0.372	0.633	0.029	0.034	0.009	0.148	39.9
女性学・ジェンダー関連の授業が充実	0.066	0.603	0.454	0.015	-0.011	-0.035	4.6
少人数教育	0.345	0.520	-0.049	0.058	0.283	-0.098	46.5
教師のすすめ	0.021	0.100	0.703	0.135	0.182	0.019	30.3
家族のすすめ	0.169	0.100	0.637	-0.082	-0.025	0.073	43.0
結婚に有利	0.384	0.068	0.486	-0.022	0.031	0.103	9.6
自宅から通える	0.009	0.075	0.025	-0.814	0.070	0.028	33.2
学寮がある	0.145	0.007	0.124	0.794	0.184	-0.041	20.3
歴史的なまち、奈良にある	0.352	0.432	-0.191	0.473	0.037	0.077	60.7
教師・教育関係職業志望	0.244	0.051	0.184	0.117	0.632	-0.213	18.8
就職に有利	0.335	0.066	0.281	-0.081	0.573	0.055	27.3
希望する専攻分野がある	-0.015	0.231	-0.257	-0.107	0.484	0.323	87.0
学費が安い	-0.036	-0.079	-0.045	0.252	0.447	0.310	83.2
自分の学力に合っている	0.058	-0.028	0.027	0.051	0.024	0.755	83.9
受験科目が得意科目	0.046	0.158	0.134	-0.096	0.013	0.695	59.8
固有値	3.563	2.317	1.848	1.729	1.504	1.502	
寄与率(%)	15.491	10.075	8.033	7.516	6.541	6.530	
累積(%)	15.491	25.567	33.599	41.115	47.656	54.186	

奈良女子大学 2003『奈良女子大学卒業生・大学院修了生のライフコースと国立女子大学の将来像に関する調査結果報告書』pp.16-17及び pp.247-249から作成

*因子分析（主因子法・ヴァリマックス回転）は学部卒業生全体の結果。％は1991-2000年コホートのみのもの（「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計）。

のすすめ」「家族のすすめ」からなる「社会的評価」因子である。続いて、「自宅から通える（-）」「学寮がある」の「居住」因子が第4因子、「教職関係職業志望」「就職に有利」「希望する専攻」からなる「就職志向」因子が第5因子、最後に「自分の学力にあっている」「受験科目が得意科目」から構成される「学力関連」因子が第6因子となっている。

お茶の水女子大学調査の分析では、因子分析結果そのものは示されていないが、因子分析の結果から6因子（「名声・伝統」「研究環境」「教育環境」「受験学力」「周囲のすす

め」「経済合理性」と、それに依らず採用したとする「都心にある」「教職志望」の2因子を取り入れ、8因子に分類をしている（表8参照）。因子の命名こそ異なるものの、双方の大学における因子は似通っている（ただ、お茶の水の場合、因子ごとの項目が全ては掲載されていないため、比較できない部分もある）。「国立女子大の教育実績―名声伝統」、「教育環境充実―（研究環境＋教育環境）」、「社会的評価―周囲のすすめ」、「居住環境―経済的合理性」、「学力関連―受験学力」（以上、奈良女子―お茶の水女子の順）などである。奈良女子大学で「居住環境」と命名された因子は「歴史的なまち奈良にある」との質問項目が入っていることによるものであろうが、これは他の因子の負荷量も多く、不安定なので、これを除けばお茶の水と同じく「経済合理性」ということもできる。強いて両校の違いを挙げるならば、奈良女子大で「教育環境の充実」と一つの因子であったものが、お茶の水女子大では「研究環境」と「教育環境」に分かれる点である。いずれにせよ、ともに「国立女子大学としての伝統や名声」、「教育・研究環境の充実」、「周囲からの社会的評価」といったものが受験理由の大きな柱となっており、これに「受験学力」や「経済合理性」などの要因が加わる構造である。

以上の因子分析結果は、1953年以降の学部卒業生全てを対象としたものである。4年次生のみを対象とする武庫川女子大学の結果と近い条件で比較をするため、国立女子大学の1991-2000年コホートのみに対象を絞り、検討を行う。因子分析により各質問項目を分類し、「かなりあてはまる」「ややあてはまる」と回答した合計%を示したものが表7～9である。お茶の水女子大学については、項目によって因子への分類がされていないので、そのような項目は網掛けで下位に並べた（「教養を身につけるのに適当」については、筆者の判断で「教育環境」に入れた）。

「教育環境」、「知名度・伝統」、「受験学力」の三つは、受験理由を構成する因子として共通するものである。国立女子大では、「国立女子大学の教育実績」が一番大きな因子で、それを構成する「伝統と歴史がある」は1991-2000年コホートでそれぞれ72.5%、76.1%（奈良女―お茶の水の順、以下同様）であり、全体の80%台よりは低くなっているものの高い数値を示す。さらに「国立大学は社会的評価が高い」が71.4%と64.6%、「各女子大への憧れ」46.3%、50.5%などで肯定的回答が多い。これに対し、武庫川女子大学の「知名度・伝統」は第2因子で、その中の項目「よく名前を知られた大学」47.9%、「伝統のある大学」33.2%で、女子高等師範の伝統をもつ両女子大学の肯定比率とは差がある。本学では「教育内容・環境」因子が最も大きく、学びたい学科の他、「資格や免許の取得」60.3%、「施設・設備の充実」58.0%、「就職率がよい」55.1%などの項目が受験理由として評価されている。この他、国立女子大では「周囲のすすめ」「社会的評価」が単独因子として抽出されたのに対し、本学ではそれらを構成する項目は分散し、因子としては抽出されなかった点に違いが認められる。

表 7. 奈良女子大学を受験した理由の肯定的回答比率 (%)

		全体	1991～2000年 コホート
国立女子 大学の 教育実績	国立女子大学だから	54.8	43.8
	女子教育に実績があるから	49.9	31.7
	伝統と歴史があるから	83.6	72.5
	奈良女へのあこがれ	53.1	46.3
	国立は社会的評価が高い	77.1	71.4
	教育環境充実	50.6	39.3
	教養を身につけるのに適当	46.9	38.6
教育環境 の充実	大学院があるから	6.2	11.8
	キャンパスの雰囲気がよい	35.4	39.9
	女性学・ジェンダー関連の授業が充実	3.0	4.6
	少人数教育	51.5	46.5
社会的 評価	教師のすすめ	37.7	30.3
	家族のすすめ	46.0	43.0
	結婚に有利	10.5	9.6
居住環境	自宅から通える	29.8	33.2
	学寮がある	36.3	20.3
	歴史的なまち、奈良にある	65.1	60.7
就職志向	教師・教育関係職業志望	40.2	18.8
	就職に有利	35.8	27.3
	希望する専攻分野がある	81.8	87.0
	学費が安い	86.8	83.2
学力関連	自分の学力に合っている	83.3	83.9
	受験科目が得意科目	51.9	59.8

奈良女子大学 2003『報告書』 pp.247-249

*表 7～9 のいずれも、「かなりあてはまる」「ややあてはまる」と答えた者の割合

表 8. お茶の水女子大学を受験した理由の肯定的回答比率 (%)

		全体	1991～2000年 コホート
名声・ 伝統	伝統と歴史がある	81.6	76.1
	国立女子大学だから	45.2	36.8
	国立大学は社会的評価が高いから	74.1	64.6
	女子教育に実績がある大学だから	50.9	41.6
	「お茶大」という名前に憧れていたから	46.8	50.5
研究 環境	大学院のある大学だから	9.9	17.6
	女性学やジェンダー関連授業が充実している	5.1	9.3
	ジェンダー研究センターがあるから	1.5	2.8
教育 環境	少人数教育	70.3	73.3
	教育環境が充実しているから	61.4	54.3
	キャンパスの雰囲気がよかったから	31.3	34.2
	教養を身につけるのに適当と思ったから	46.0	50.5
受験 学力	自分の学力にあったから	78.1	77.2
	受験科目が得意科目であったから	57.5	63.5
周囲の すすめ	家族にすすめられたから	41.9	42.0
	教師にすすめられたから	34.0	27.8
経済 合理性	学費が安いから	87.9	86.0
	自宅から通えるから	45.8	40.2
	学寮があるから	21.9	15.6
都心	東京の都心部にあるから	60.5	65.6
教職	教師や教育関係の職業を希望したから	32.3	22.8
	(希望する専攻分野があったから)	83.2	87.3
	(就職に有利だから)	39.1	36.0
	(結婚に有利だから)	9.9	9.2

お茶の水女子大学 2001『報告書』 p.26及び pp.275-277.

表 9. 武庫川女子大学を受験した理由の肯定比率 (％)

教育内容・ 環境	Q 4 教育に力を入れていると聞いたから	36.4
	Q 2 自分の学びたい学科や専攻があったから	91.2
	Q13 様々な資格や免許を取ることができるから	60.3
	Q 3 就職率がよいと聞いたから	55.1
	Q21 幅広い教養を身につけることができるから	29.3
	Q12 施設や設備がきれいで充実していると思ったから	58.0
	Q 1 建学の精神に共鳴したから	6.5
知名度・ 伝統	Q19 家族にすすめられたから	35.6
	Q 7 よく名前を知られている大学だったから	47.9
	Q18 阪神間の都市部にあるから	41.8
	Q 6 伝統がある大学だったから	33.2
	Q15 総合的で大きな大学であるから	41.0
	Q20 教師にすすめられたから	29.1
	Q 5 自分の偏差値にあう大学だったから	51.8
受験	Q 9 武庫川女子大学附属高校の出身だから	18.3
	Q17 自分が得意の科目で受験することができたから (－)	51.0
	Q10 出身高校にこの大学への推薦入試があったから	24.8
	Q14 共学大学に合格できなかったから (反転*)	23.9
	Q11 有名な先生、学びたい先生がいたから	4.9
通学 (経済性)	Q16 大学の学生寮があったから	4.1
	Q 8 自宅から通学できる距離にあったから (－)	55.8

(－)：因子分析で－符号となった項目

(反転*)：因子分析では反転した項目。％は反転させていないもの

(2) 「女子大学」に入学した理由

二つ目の軸は、「あなたが共学大学ではなく女子大学に入学した理由について、あなたの気持ちに近いものを選んで下さい」として、伝統や特色を背負った固有名詞の大学ではなく、「女子大学」への入学理由を尋ねた。この質問項目についても国立2女子大学のアンケート項目（但し、受験理由の問い）と同様のものを採用しているので、3大学の比較を通して、女子大学への受験・入学を規定する要因の検討を行う。

1) 武庫川女子大学調査

まず本学調査データを、全体と附属出身者、外部（附属以外）出身者に分けて因子分析を行った。その結果が表10～12である。全体では3因子、附属校のみが2因子、外部校では4因子に分類された。なお、附属校のみの分析では、Q 2「共学高校だったので女子大へ」とQ14「共学より女子大の方が合格しやすい」の2項目は該当しないので、これらを除外した。

全体では、3因子構造となった（表10）。半分以上の項目が含まれる第1因子は「女性だけの方が穏やかで落ち着ける」、「女性だけの方が勉強に専念できる」、「女性らしさや女性としての適性の獲得」、「男性に頼らない独立心を養う」、「同性の友人を得やすい」、「男性が苦手」などからなるので「**女性だけの環境**」因子と命名した。第2因子は「高校の先生や先輩のすすめ」、「家族などのすすめ」、「女子大の方が周囲のイメージがよい」、「女子大の方が合格しやすかった」の4項目から構成されるので「**周囲のすすめ・イメージ**」と

し、第3因子は「女子大にしかない学科・専攻」と「就職に有利」なので「女子大の有利さ」と名付ける。

該当しない2質問項目を除いた附属のみの分析では、2因子構造となった（表11）。全体の第2因子を構成した「高校の先生や先輩からのすすめ」と「家族や親戚からのすすめ」が独立して附属の第2因子を形成し、全体の第1因子と第3因子項目がまとまって大きな第1因子となった。第1因子を「女子のみの環境」、第2因子を「周囲のすすめ」と命名した。

次に外部出身者の分析では、最も多い4つの因子が抽出された（表12）。他と同じく「女性だけの方が穏やかで落ち着ける」「勉強に専念できる」などからなる第1因子は「女子のみの環境」である。第2因子は全体の第2因子と同じ項目からなるので「周囲のすすめ・イメージ」、第3因子は「女性として学びたい教育内容の提供」の1項目のみから構成される新たな因子であり、「女性としての教育内容」と名付ける。第4因子は、全体の

表10. 「女子大学への入学理由」の因子分析結果（全体）

n = 1280

	女性のみの環境	周囲の勧め・イメージ	女子大の有利さ
Q7 女性だけの方が穏やかで落ち着けるから	0.982	-0.075	-0.160
Q1 女性だけの方が勉強に専念できるから	0.818	-0.004	-0.107
Q8 女性らしさや女性としての適性を身につけるのに適している	0.775	-0.017	0.084
Q9 男性に頼らない独立心を養いやすいから	0.709	-0.002	0.078
Q11 同性の友人を得やすいから	0.614	0.013	-0.001
Q16 男性が苦手だったから	0.517	0.167	-0.092
Q2 共学の高校だったので女子大に行ってみたかったから	0.472	0.026	-0.023
Q10 女性として学びたい教育内容が提供されているから	0.454	-0.130	0.440
Q3 女子高校だったので女子大に行きたかったから	0.392	0.148	0.109
Q13 高校の先生や先輩に女子大の受験をすすめられたから	-0.005	0.809	-0.137
Q12 家族や親戚に女子大の受験をすすめられたから	0.023	0.785	-0.119
Q15 女子大へ入った方が周囲からよいイメージで見られるから	0.144	0.589	0.103
Q14 共学大より女子大の方が合格しやすかったから	-0.088	0.497	0.073
Q6 女子大を卒業した方が結婚にプラスになるから	0.203	0.336	0.292
Q4 女子大にしかない学科や専攻があったから	-0.153	-0.105	0.789
Q5 女子大の方が就職する際に有利だから	0.121	0.191	0.517

因子相関行列

因子	1	2	3
1	1	0.686	0.715
2	0.686	1	0.565
3	0.715	0.565	1

表11. 附属校出身者の「女子大学への入学理由」の因子分析結果

n = 236

	女性のみの環境	周囲のすすめ
Q 8 女性らしさや女性としての適性を身につけるのに適している	0.824	-0.037
Q 9 男性に頼らない独立心を養いやすいから	0.765	-0.055
Q 4 女子大にしかない学科や専攻があったから	0.764	-0.059
Q 5 女子大の方が就職する際に有利だから	0.763	-0.019
Q 7 女性だけの方が穏やかで落ち着けるから	0.752	-0.038
Q 3 女子高校だったので女子大に行きたかったから	0.739	-0.029
Q10 女性として学びたい教育内容が提供されているから	0.713	0.078
Q 1 女性だけの方が勉強に専念できるから	0.691	0.087
Q 6 女子大を卒業した方が結婚にプラスになるから	0.665	0.055
Q11 同性の友人を得やすいから	0.484	0.150
Q15 女子大へ入った方が周囲からよいイメージで見られるから	0.436	0.346
Q16 男性が苦手だったから	0.400	0.053
Q13 高校の先生や先輩に女子大の受験をすすめられたから	0.020	0.832
Q12 家族や親戚に女子大の受験をすすめられたから	-0.071	0.820

因子相関行列

因子	1	2
1	1	0.598
2	0.598	1

表12. 外部校出身者の「女子大学への入学理由」の因子分析結果

n = 1044

	女性のみの環境	周囲の勧め・イメージ	女性としての教育内容	女子大の有利さ
Q 7 女性だけの方が穏やかで落ち着けるから	0.895	-0.079	-0.002	-0.023
Q 1 女性だけの方が勉強に専念できるから	0.810	-0.105	-0.065	0.055
Q 2 共学の高校だったので女子大に行ってみたかったから	0.640	-0.059	-0.070	0.039
Q 8 女性らしさや女性としての適性を身につけるのに適している	0.593	0.067	0.266	0.009
Q16 男性が苦手だったから	0.571	0.040	-0.169	0.177
Q 9 男性に頼らない独立心を養いやすいから	0.509	0.059	0.222	0.082
Q11 同性の友人を得やすいから	0.492	0.127	0.284	-0.202
Q13 高校の先生や先輩に女子大の受験をすすめられたから	-0.069	0.834	-0.053	-0.052
Q12 家族や親戚に女子大の受験をすすめられたから	-0.021	0.823	-0.016	-0.066
Q14 共学大より女子大の方が合格しやすかったから	-0.090	0.459	0.030	0.106
Q15 女子大へ入った方が周囲からよいイメージで見られるから	0.136	0.440	-0.002	0.286
Q10 女性として学びたい教育内容が提供されているから	0.008	-0.011	0.930	0.089
Q 6 女子大を卒業した方が結婚にプラスになるから	0.156	0.143	-0.007	0.576
Q 5 女子大の方が就職する際に有利だから	0.072	0.061	0.189	0.534
Q 4 女子大にしかない学科や専攻があったから	-0.223	-0.141	0.414	0.477
Q 3 女子高校だったので女子大に行きたかったから	0.277	-0.022	-0.086	0.449

因子相関行列

因子	1	2	3	4
1	1	0.656	0.585	0.633
2	0.656	1	0.394	0.586
3	0.585	0.394	1	0.353
4	0.633	0.586	0.353	1

第3因子を構成する「就職に有利」「女子大にしかない学科・専攻」に「結婚にプラス」「女子校だったので女子大に」が加わったもので、同じく「女子大の有利さ」とした。

2) お茶の水女子大学調査・奈良女子大学調査との比較

「女子大学の受験理由」についても、お茶の水、奈良女子両調査との比較検討を行う。

お茶の水調査では、因子分析の結果自体は掲載されていないが、因子に基づいた分類がなされている。奈良女子調査では因子分析結果は示されていないが、質問項目はお茶の水女子大学と同じであるので、便宜的にお茶の水の因子分類を用いて示した。本学調査（女子大への入学理由）では、全体の因子分析による分類を用いる。

因子分析に基づいて質問項目を分類し、肯定比率を示したものが表13～15である。質問項目から分かるように、国立女子大学調査では1953年以降の卒業生全てを対象としているので、「家族が女子大学進学しか許さなかった」「女性は女子大に進学するのが当たり前」といったかなり昔の意識を反映した項目が取り入れられているが、これらの項目は本学の調査にはない。本学調査では「家族や親戚に女子大受験をすすめられた」を入れている。逆に、「男性が苦手だったから」「周囲からよいイメージでみられる」「高校の先生や先輩にすすめられた」の項目は本学調査のみの項目である。これらを除く約10項目は、3大学でほぼ対応している。

まず、お茶の水調査の因子分析による分類を見ると、「女性のみの環境」「学問環境」「戦略a（男性と競合しない女子大の優位性）」「戦略b（別学である女子大の優位性）」「時代的要因」の5因子が抽出されている。本学の結果と同じく、「女性だけの方が勉強に専念できる」「女性だけの方が穏やかで落ち着ける」「独立心を得やすい」などの項目からなる「女性のみの環境」因子が確認できる。本学調査では、お茶の水調査では分類されていない「共学校だったので女子大へ」「女子校出身なので女子大へ」もこの因子に入った。他に一致する因子は見られず、お茶の水調査の「学問環境」「戦略a」「戦略b」にある項目は、本学の分類では分散している。本学の第2因子「周囲のすすめ・イメージ」は、主として本学独自の質問項目からなるものである。

次に、項目ごとに肯定的回答比率（「かなりあてはまる」+「ややあてはまる」）を比較する。まず同じ質問項目で、2国立女子大学の1991-2000年コホートを比べると、それほど大きな差異はないが、総じてお茶の水の方が高い割合になっている。中でも「女性のみの環境」因子の項目でその傾向は強い。具体的には「男性に頼らない独立心」で9.4%、「女性だけの方が穏やか」で5.5%、「女性だけの方が勉強に専念できる」で4.7%、奈良女子大より高いという結果であった。

では、本学と国立大（1991-2000年コホート）との比較ではどうか。大きな差が見られないのは、「同性の友人を得やすい」（お茶女34.4%、奈良女32.7%、武庫女33.0%－以下、

表13. 女子大学を受験した理由の肯定回答比率（お茶の水女子大学）（％）

		全体	1991～2000年 コホート
女性 のみの 環境	女性だけの方が勉強に専念できる	26.2	23.0
	女性だけの方が穏やかで落ち着ける	34.6	35.9
	男性に頼らない独立心を養いやすい	32.1	37.1
	同性の友人を得やすい	32.4	34.4
学問 環境	その分野を学ぶには女子大が適していた	21.3	19.7
	女性学の研究や学習にむいている	9.4	10.6
戦略 a	女子大は女性の就職に有利だ	14.5	8.3
	女子大の方が合格しやすい	27.1	19.2
戦略 b	女子大を卒業すると結婚にプラスだ	5.0	4.5
	女性らしさや適性を身につけるのに適している	10.9	13.1
	異性の友人を得やすい	1.8	2.6
時代的 要因	家族が女子大進学しか許さなかった	8.6	1.7
	女性は女子大に進学するのが当たり前	5.5	-
	共学出身なので女子大に行ってみたかった	18.5	24.0
	女子校出身なので女子大に行きたかった	6.4	5.2

5 件法のうち、「かなりてはまる」「ややあてはまる」と回答した者の割合（以下同様）
お茶の水女子大学 2001『報告書』p.28及び pp.277-279.

戦略 a：男性と競合しない女子大の優位性
性を認識したアフターマティブ・アクション的意味合い重視
戦略 b：別学であるという点に女子大の優位性を認めた婚姻戦略的意味合いを重視

表14. 「女子大学を受験した理由」の肯定回答比率（奈良女子大学）（％）

		全体	1991～2000年 コホート
女性 のみの 環境	女性だけの方が勉強に専念できる	21.5	18.3
	女性だけの方が穏やかで落ち着ける	31.9	30.4
	男性に頼らない独立心を養いやすい	30.0	27.7
	同性の友人を得やすい	28.5	32.7
学問 環境	希望分野は女子大が適していた	22.7	18.8
	女性学の研究や学習に向いている	7.6	7.9
戦略 a	女子大は女性の就職に有利	13.7	11.3
	女子大の方が合格しやすい	24.2	16.4
戦略 b	女子大の卒業は結婚にプラス	4.2	3.9
	女性らしさを身につけるのに適している	6.5	8.1
	異性の友人を得やすい	1.0	2.4
時代的 要因	家族が女子大進学しか許さない	11.0	3.4
	女性は女子大進学が当たり前だった	5.0	-
	共学校だったので女子大に	18.2	19.9
	女子校だったので女子大に	2.3	2.4

奈良女子大学 2003『報告書』pp.249-251

（注：この分類は便宜的にお茶の水の結果を使ったもので、奈良女子大の分析結果ではない）

表15. 「女子大学への入学理由」の肯定回答比率（武庫川女子大学）（％）

女子大の 教育環境	Q 7 女性だけの方が穏やかで落ち着けるから	15.8
	Q 1 女性だけの方が勉強に専念できるから	9.0
	Q 8 女性らしさや女性としての適性を身につけるのに適している	9.4
	Q 9 男性に頼らない独立心を養いやすいから	6.9
	Q11 同性の友人を得やすいから	33.0
	Q16 男性が苦手だったから	3.7
	Q 2 共学の高校だったので女子大に行ってみたかったから	6.4
	Q10 女性として学びたい教育内容が提供されているから	17.6
	Q 3 女子高校だったので女子大に行きたかったから	5.8
周囲の 勧め イメージ	Q13 高校の先生や先輩に女子大の受験をすすめられたから	11.4
	Q12 家族や親戚に女子大の受験をすすめられたから	13.8
	Q15 女子大へ入った方が周囲からよいイメージで見られるから	4.4
	Q14 共学大より女子大の方が合格しやすかったから	15.9
	Q 6 女子大を卒業した方が結婚にプラスになるから	1.8
女子大 有利さ	Q 4 女子大にしかない学科や専攻があったから	20.7
	Q 5 女子大の方が就職する際に有利だから	6.0

この順)、「女子大にしかない学科・専攻（その分野を学ぶに女子大が適していた）」（19.7％、18.8％、20.7％）、「女子大の方が合格しやすかった」（19.2％、16.4％、15.9％）などである（「女子大の方が合格しやすい」で、武庫川調査で附属出身者を除いた場合、その比率は上がる）。逆に本学と国立大で差がみられた項目は、「勉強に専念できる」（23.0％、18.3％、9.0％）、「穏やかで落ち着ける」（35.9％、30.4％、15.8％）、「男性に頼らない独立心」（37.1％、27.7％、6.9％）であり、国立2大学の方がかなり高い比率になっている。特に「男性に頼らない独立心」では本学とお茶の水、奈良女子との差はそれぞれ30.2、20.8ポイントであり、「勉強に専念できる」の項目肯定比率はともに本学の倍以上である。

その他の項目では、「就職に有利」が8.3％、11.3％、6.0％と、国立2大学の方が高く、「結婚にプラス」との回答も4.5％、3.9％、1.8％で、国立大学がわずかではあるが上回っている。もっとも、国立2女子大学との比較の場合、「受験した理由」を尋ねてはいるものの、国立2大学の対象は卒業生であり、既婚者もいること、あるいは本学調査の対象者と10歳前後の年代差があり、そうしたバイアスがかかっていることも考慮する必要がある。

(3) 武庫川女子大学と「女子大学の特徴」

これまで、具体的な個々の女子大学、あるいは「女子大学」一般への入学（あるいは受

験)の理由といった「女子大学」を選ぶに至る input 要因を尋ねてきたが、ここからは武庫川女子大学における学生生活を通して得られたものについて検討する。本節では、一般的に「女子大学のよさや特性」として指摘されている意見を挙げ、それらが武庫川女子大学での学生生活に当てはまるかどうかを4件法で尋ねた⁽⁴⁾。これは武庫川女子大学の「女子大学」としての評価を在学学生に問うものであり、「女子大学の特徴」とされるものが武庫川女子大学にどれほど当てはまるのかを確かめるものである。

これまでと同じく全体、附属出身者、外部（附属以外）出身者ごとに因子分析を実施したが、全体と外部出身者はそれぞれ2因子構造で、項目構成およびその負荷量の順位はほとんど変わらなかったため、ここでは外部出身者の結果のみを取り上げる。附属出身者の因子分析結果は3因子となった。それぞれ、表16と表17に示している。

詳しくみていくと、外部出身者（と全体）では、「自らの能力に自信・責任感のある女性育成」「自らの創意工夫で活動の計画や遂行」「指導的立場に立つ女性育成」といった女子大学の肯定的な側面からなる「女子大の長所」因子と、「活気のない大学になる」「経済や政治への関心が薄くなる」「女子大は時代に逆行している」など「女子大の短所」因子に二分され、因子間の相関も低い。

これに対し、附属出身者では3因子を抽出した。この第2因子は外部出身者の第2因子と同じ項目からなるもので、「女子大の短所」因子である。両者の違いは、外部（と全体）の第1因子構成項目が、附属では第1因子と第3因子に分かれた点である。附属の第1因子は、先の外部の第1因子（「女子大の長所」）項目の中で上位にある「自らの能力に自信・責任感のある女性育成」「自らの創意工夫で活動の計画や遂行」からなるので「女性の主体性発揮」と名付け、第3因子は「女子学生に対する働きかけが熱心」「目標となる卒業生が多い」「女性らしさが引き出される」「女性の立場からの学問」の項目から構成されているので、「周囲からの支援・刺激」と命名した。附属出身者においては、女子大学の長所とも言えるべきものが、二つに分かれて認識されている点が興味深い。

表16. 「武庫川女子大学における『女子大の特徴』の当てはまり」についての
因子分析結果（外部出身者）

n = 1062

	女子大の 長所	女子大の 短所
Q 3 自分の能力に自信を持ち責任感のある女性を育てることができる	0.856	0.029
Q 2 女性自らの創意や工夫で色々な活動の計画や遂行ができる	0.820	0.035
Q 4 指導的立場に立つ女性を育てることができる	0.794	0.028
Q 1 あらゆる役割を女性が引き受けることができる	0.719	-0.002
Q 6 女性の立場から学問ができる	0.691	-0.042
Q 9 女子学生に対する教員の教育的な働きかけが熱心である	0.601	-0.047
Q 5 男性に煩わされることなく学ぶことができる	0.598	-0.007
Q 8 目標となる卒業生が多いので今後の進路の参考となる	0.566	-0.012
Q12 女性らしさが引き出される	0.519	0.012
Q10 女子のみでは活気のない大学になる（*）	0.156	0.694
Q11 経済や政治への関心が薄くなる（*）	-0.100	0.629
Q15 女子大があることは時代に逆行している（*）	0.139	0.605
Q13 女性らしさが失われる（*）	0.030	0.569
Q14 学問的な訓練において厳しさに欠ける（*）	-0.138	0.557
Q 7 男性がいないので多様な考え方ができにくくなる（*）	-0.179	0.540

（*）：反転項目（以下同様）

因子相関行列

因子	1	2
1	1	-0.170
2	-0.170	1

表17. 「武庫川女子大学における『女子大の特徴』の当てはまり」についての因子分析結果
（附属出身者）

n = 245

	女性の主体 性発揮	女子大の 短所	周囲からの 支援・刺激
Q 2 女性自らの創意や工夫で色々な活動の計画や遂行ができる	0.948	0.041	-0.171
Q 3 自分の能力に自信を持ち責任感のある女性を育てることができる	0.854	0.047	-0.011
Q 4 指導的立場に立つ女性を育てることができる	0.747	0.086	0.046
Q 1 あらゆる役割を女性が引き受けることができる	0.676	-0.031	0.094
Q 5 男性に煩わされることなく学ぶことができる	0.520	-0.141	0.062
Q11 経済や政治への関心が薄くなる（*）	-0.054	0.671	0.010
Q10 女子のみでは活気のない大学になる（*）	0.003	0.604	0.117
Q13 女性らしさが失われる（*）	0.045	0.569	0.107
Q14 学問的な訓練において厳しさに欠ける（*）	-0.019	0.493	-0.205
Q 7 男性がいないので多様な考え方ができにくくなる（*）	-0.068	0.440	-0.169
Q15 女子大があることは時代に逆行している（*）	0.135	0.408	0.144
Q 9 女子学生に対する教員の教育的な働きかけが熱心である	-0.070	0.023	0.849
Q 8 目標となる卒業生が多いので今後の進路の参考となる	0.036	0.100	0.678
Q12 女性らしさが引き出される	0.010	0.045	0.407
Q 6 女性の立場から学問ができる	0.381	-0.106	0.402

因子相関行列

因子	1	2	3
1	1	-0.071	0.652
2	-0.071	1	-0.257
3	0.652	-0.257	1

(4) 武庫川女子大学での「学生生活」

1) 因子分析

最後の質問肢項目として、武庫川女子大学での学生生活を振り返り、評価をしてもらった。本学の教育方針や女子大学としての特徴、交友関係など幅広く尋ねている。（「武庫川女子大学での生活を振り返って、次の項目についてあなたの率直な感想をお聞かせ下さい」に2節同様の5件法で回答）。本学の学生生活を規定する要因を抽出するとともに、本学の取り組みへの学生からの評価との側面も併せ持つ。

まず学生の学生生活を規定する要因を探るために因子分析を行った。全体と外部出身者で抽出された因子はともに8因子であり、第2因子と第3因子の順が入れ替わっているだけで、構成する質問項目はほぼ同じであった。これに対して附属出身者の因子分析では、同じく8因子を抽出したものの、いくつか内容の異なる因子が得られた。ここでは、外部出身者と附属出身者の結果の比較を行うこととする。

表18に示したものが、外部出身者（附属以外）の因子分析結果である。構成項目をみて、第1因子から順に、以下のように命名した。「教職員の対応」「友人づくりの環境」「知識・資格等の修得」「クラブ活動」「学生の交流」「将来への準備」「学生マナー」「施設・設備の充実」の8因子である。全体の分析では、このうち「友人づくりの環境」と「知識・資格等の修得」が入れ替わっているのみである。

これに対し附属出身者では、表19のようになった。第1因子から順に、「自立心や資格・教養の修得」「就職への準備」「友人づくりの環境」「教職員の対応」「学内環境の整備・印象」「学生マナー」「選択肢の多様性」「女性間の交流・活動」と命名した。

以下、両者の因子分析結果を比較していく。ともに同じ質問項目からなる因子は、「友人づくりの環境」「教職員の対応」「学生マナー」である。この他類似したものを挙げると、外部の「知識・資格等の修得」（第3因子）に対応する因子は、附属の第1因子であるが、この因子には外部（と全体）には含まれていない「自立心を身につけることができる」と「女性として将来の目標や課題をつかむことができる」の項目が入っているので解釈は難しいが、「自立心に必要なものの修得」と命名した。次に、外部の「施設・設備の充実」（第8因子）に対応するものが、附属では「学校内環境の整備・印象」（第5因子）と名付けた因子であり、外部の因子構成項目にはない「学生はもっときちんとした服装をしたほうがよい」という人的要素（－）が入っている。さらに、外部にある「将来への準備」（第6因子）を、附属では「就職への準備」（第2因子）とした。附属では「就職枠があって有利」「きめ細かい就職指導」などの項目が含まれ、将来への準備の中でも就職の要素が強いためである。附属の第8因子には、外部の「学生の交流」（第5因子）にあった「学生がバラバラで孤立」「何となくホッとできる」がなくなり、代わって「クラブでやりたいことができる」「女性を意識した授業が多い」が入っているため、「女性間の交

表18.「武庫川女子大学での学生生活」についての因子分析結果（外部出身者）

n = 1060

	教職員の 対応	友人づく りの環境	知識・資格 等の修得	クラブ 活動	学生の 交流	将来に向 けた準備	学生の マナー	施設・設 備の充実
Q12 職員の対応は親切である	0.757	-0.061	0.001	0.017	0.003	-0.123	0.112	0.035
Q14 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	0.626	-0.068	0.040	-0.027	0.034	0.096	0.095	0.027
Q 2 教員と話す機会が多く親しみやすい雰囲気がある	0.497	0.102	-0.132	-0.063	0.133	0.107	-0.114	0.005
Q 6 きめ細かい就職指導を受けることができる	0.474	0.039	0.169	0.041	-0.087	0.056	0.010	0.016
Q11 武庫川女子大学用の就職枠があつて有利である	0.273	-0.037	0.027	0.189	-0.129	0.114	0.003	0.096
Q 9 入学後、親しい友人を得やすい	-0.058	0.894	0.081	0.054	0.007	-0.120	-0.010	0.017
Q 8 クラス制は学生生活に慣れる上で役立つ	-0.032	0.733	0.157	0.062	-0.079	-0.142	0.059	0.060
Q15 同性ばかりなので周りを気にせず自分らしさを出せる	0.057	0.352	-0.121	-0.019	0.165	0.229	0.004	0.030
Q10 比較的少人数の授業が多い	0.134	0.214	-0.005	-0.073	-0.137	0.145	0.101	0.060
Q27 職業に役立つ知識や技能を身につけることができる	0.057	0.093	0.732	-0.046	0.052	0.122	-0.031	-0.094
Q29 希望する資格や免許を取ることができる	0.038	0.191	0.652	-0.092	-0.062	-0.074	-0.021	-0.077
Q26 幅広い教養を身につけることができる	-0.043	-0.122	0.462	0.052	0.104	0.331	-0.027	0.134
Q18 幅広い分野の学習をする機会が少ない（＊）	0.020	-0.207	0.370	0.028	0.351	-0.157	0.107	-0.045
Q 7 クラブでやりたいことが十分できる	-0.044	0.089	-0.027	0.738	-0.094	0.053	-0.048	-0.001
Q13 クラブや自治会を全部自分たちで行うので自立心が養われる	0.156	-0.017	-0.026	0.497	-0.031	0.115	-0.083	0.105
Q20 魅力あるクラブがあまりない（＊）	0.024	-0.033	-0.070	0.491	0.394	-0.114	0.075	-0.089
Q 5 仲間とゆっくりくつろげる場がない（＊）	0.016	0.014	0.050	-0.163	0.679	-0.134	-0.144	0.001
Q21 学生がバラバラで孤立している（＊）	0.080	0.117	0.030	0.125	0.462	-0.297	0.074	-0.035
Q 3 異性が周りにいないのは不自然だと思う（＊）	-0.105	-0.079	-0.067	0.031	0.447	0.201	0.087	-0.112
Q25 なんとなくホッとできる雰囲気がある	0.029	0.215	-0.038	-0.123	0.339	0.338	0.016	0.104
Q23 女性として将来の目標や課題をつかむことができる	0.009	-0.004	0.098	0.006	-0.044	0.712	0.102	0.082
Q24 学生はもっときちんとした服装をした方がよい	0.075	-0.128	-0.014	0.045	-0.162	0.564	-0.064	-0.270
Q22 働いている先輩に話を聞くことができ働くことの参考になる	0.196	0.011	0.167	0.001	-0.053	0.459	0.026	-0.131
Q30 自立心を身につけることができる	-0.138	0.029	0.314	0.142	0.045	0.350	0.021	0.091
Q 1 同性の同学年や先輩・後輩の交流があり参考になる	0.169	0.217	-0.049	0.212	0.087	0.263	-0.092	-0.175
Q16 マナーの悪い学生が多い（＊）	-0.020	-0.010	-0.068	0.009	0.072	-0.007	0.718	0.187
Q28 授業中に私語が多い（＊）	0.145	0.079	0.029	-0.085	-0.041	0.044	0.601	-0.138
Q19 ゴミやいたずら書きなどが少なく施設がきれいである	0.008	0.112	-0.097	-0.004	-0.121	-0.146	0.135	0.684
Q17 図書館やコンピュータなどの設備や機器が充実している	0.135	-0.058	0.041	0.019	0.048	-0.194	-0.226	0.587
Q 4 女性を意識した授業、女性として関心が高い授業が多い	0.143	0.011	0.068	-0.003	-0.108	0.113	-0.087	0.264

因子相関行列

因子	1	2	3	4	5	6	7	8
1	1	0.507	0.508	0.467	0.253	0.639	-0.157	0.534
2	0.507	1	0.354	0.197	0.331	0.470	-0.133	0.479
3	0.508	0.354	1	0.284	0.303	0.582	-0.152	0.553
4	0.467	0.197	0.284	1	0.230	0.459	-0.078	0.251
5	0.253	0.331	0.303	0.230	1	0.358	0.199	0.408
6	0.639	0.470	0.582	0.459	0.358	1	-0.244	0.603
7	-0.157	-0.133	-0.152	-0.078	0.199	-0.244	1	-0.173
8	0.534	0.479	0.553	0.251	0.408	0.603	-0.173	1

表19. 「武庫川女子大学での学生生活」についての因子分析結果（附属出身者）

n = 243

	自立心や 資格・教 養の修得	就職へ の準備	友人づ くりの 環境	教職員 の対応	学内環境 の整備・ 印象	学生の マナー	選択肢 の多様 性	女性間の 交流・活 動
Q30 自立心を身につけることができる	0.940	-0.181	-0.035	0.000	0.008	-0.035	0.036	0.043
Q29 希望する資格や免許を取ることができる	0.663	-0.074	-0.036	0.026	-0.003	-0.024	-0.006	-0.047
Q26 幅広い教養を身につけることができる	0.653	0.208	0.014	-0.002	-0.004	0.019	0.038	-0.058
Q27 職業に役立つ知識や技能を身につけることができる	0.652	0.143	-0.104	0.021	0.069	-0.108	0.090	-0.136
Q23 女性として将来の目標や課題をつかむことができる	0.462	0.425	0.054	0.003	-0.026	0.089	-0.003	-0.162
Q11 武庫川女子大学用の就職枠があつて有利である	-0.138	0.843	0.005	-0.030	0.186	0.119	-0.182	0.064
Q22 働いている先輩に話を聞くことができ働くことの参考になる	0.163	0.763	-0.089	-0.036	-0.072	0.067	-0.030	-0.173
Q 6 きめ細かい就職指導を受けることができる	-0.081	0.543	-0.065	0.335	0.151	-0.018	0.066	0.171
Q 1 同性の同学年や先輩・後輩の交流があり参考になる	-0.025	0.368	0.162	0.242	-0.215	0.013	0.101	-0.167
Q13 クラブや自治会を全部自分たちで行うので自立心が養われる	0.224	0.318	0.051	0.009	0.023	0.032	0.056	0.068
Q 9 入学後、親しい友人を得やすい	-0.088	-0.014	0.823	-0.057	0.187	0.015	0.020	-0.128
Q 8 クラス制は学生生活に慣れる上で役立つ	-0.005	-0.066	0.786	0.012	-0.094	0.100	-0.079	0.100
Q10 比較的少人数の授業が多い	-0.087	0.058	0.505	-0.060	0.082	-0.124	-0.014	0.118
Q15 同性ばかりなので周りを気にせず自分らしさを出せる	0.283	-0.036	0.345	0.091	0.258	0.109	-0.148	-0.028
Q25 なんとなくホッとできる雰囲気がある	0.223	0.074	0.322	0.209	0.015	-0.141	-0.023	-0.227
Q 2 教員と話す機会が多く親しみやすい雰囲気がある	-0.127	0.085	0.001	0.826	-0.154	-0.226	0.065	-0.011
Q14 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	0.270	-0.149	0.047	0.678	-0.033	0.047	-0.021	0.290
Q12 教員の対応は親切である	0.148	0.194	-0.157	0.469	0.128	0.087	-0.181	0.104
Q17 図書館やコンピュータなどの設備や機器が充実している	-0.016	0.099	0.022	-0.097	0.679	-0.302	0.199	0.085
Q24 学生はもっときちんとした服装をした方がよい	0.282	0.037	0.063	-0.151	-0.439	-0.219	-0.105	0.174
Q19 ゴミやいたずら書きなどが少なく施設がきれいである	0.176	0.084	0.125	-0.126	0.406	0.022	-0.088	-0.012
Q28 授業中に私語が多い（＊）	-0.043	0.053	0.069	-0.184	-0.069	0.662	0.148	0.054
Q16 マナーの悪い学生が多い（＊）	-0.041	0.198	-0.020	-0.020	-0.078	0.647	0.096	-0.014
Q20 魅力あるクラブがあまりない（＊）	0.015	-0.001	-0.055	-0.092	0.065	0.073	0.651	0.091
Q18 幅広い分野の学習をする機会が少ない（＊）	0.231	-0.090	-0.142	0.053	0.049	0.232	0.405	0.028
Q21 学生がバラバラで孤立している（＊）	-0.046	-0.248	0.112	0.236	0.021	0.165	0.393	-0.102
Q 5 仲間とゆっくりくつろげる場がない（＊）	0.192	-0.004	-0.047	-0.130	0.155	-0.053	0.201	-0.453
Q 7 クラブでやりたいことが十分できる	0.034	0.260	0.165	-0.063	-0.118	0.056	0.294	0.414
Q 4 女性を意識した授業、女性として関心が高い授業が多い	0.163	0.138	0.085	0.090	0.126	-0.055	0.048	0.405
Q 3 異性が周りにいないのは不自然だと思う（＊）	0.070	0.068	0.035	-0.095	-0.064	0.000	-0.087	-0.378

因子相関行列

因子	1	2	3	4	5	6	7	8
1	1	0.672	0.572	0.539	0.171	-0.215	0.365	0.037
2	0.672	1	0.542	0.442	0.073	-0.308	0.373	0.218
3	0.572	0.542	1	0.562	0.218	-0.141	0.290	-0.017
4	0.539	0.442	0.562	1	0.307	0.049	0.275	-0.141
5	0.171	0.073	0.218	0.307	1	0.136	-0.100	-0.200
6	-0.215	-0.308	-0.141	0.049	0.136	1	-0.066	-0.296
7	0.365	0.373	0.290	0.275	-0.100	-0.066	1	-0.110
8	0.037	0.218	-0.017	-0.141	-0.200	-0.296	-0.110	1

流・活動」と命名した。さらに、外部の第4因子「クラブ活動」を構成する項目が附属では全体に散らばってしまい、附属ではこれに類似するものとして第7因子が抽出された。「魅力あるクラブがない」「幅広い分野を学習する機会が少ない」「学生がバラバラで孤立」との質問項目からなるもので、外部では異なる因子に分類されていたものが集まっている。命名は難しいが、「選択肢の多様性」とした。

以上まとめると、外部出身者と附属出身者として共通する学生生活の構成因子としては、「友人づくりの環境」「教職員の対応」「学生マナー」がある。この他、少々因子構成項目が異なるものの、外部の「(自立心や) 資格・教養の修得」「将来(就職)への準備」「施設・設備の整備充実(学内環境の整備・印象)」「学生の交流・関係性(女性の交流・活動)」(カッコ内は附属の因子名)なども共通する因子と言える。その中でも注目すべきは、附属出身者の第1因子が、外部の「資格・教養の修得」に「自立心」が加わり、「自立心や資格・教養の修得」となった点である。ただ、附属の場合、外部(と全体)では同一因子の各項目負荷量の符号は全て同一であったが、附属では+と-の混じる因子が現れる、あるいは同一因子を構成する項目の中に異質とも思われる項目が入り、概して因子の解釈が難しくなっている。また、異なる因子として、外部で「クラブ活動」が因子を形成したのに対し、附属ではこれが散らばってなくなり、「選択肢の多様性」という新たな因子が見られた点も興味深い。

2) 現在の充実度を従属変数とする重回帰分析

以上、武庫川女子大学における4年間の大学生活の評価を因子分析し、その評価を規定する要因を抽出してきた。それでは、大学生活を規定するどの要因が、学生の大学生活充実度にどの程度寄与しているのだろうか。これを明らかにするため、フェイスシートで尋ねた「大学生活の充実度」⁽⁵⁾(表1参照)を従属変数とし、上の因子分析で得られた各因子の因子得点、および本学志望順位(「第一志望」から「第三志望以下」までの3段階)を独立変数とする重回帰分析を、全体と外部出身、附属出身に分けて、強制投入法にて実施した。その結果が表20～22である。従属変数は数字が小さいほど高い評価であり、独立変数の志望順位も同様に数字が小さいほど志望順位が高くなってが、因子得点はその逆なので、符号(+・-)に注意が必要である。

まず、全体の結果(表20)から見ていく。8つの因子のみを投入したところ、決定係数0.229で、第5因子「学生の雰囲気や関係性」と第8因子「施設や設備の充実」を除く全ての独立変数において0.1%水準で有意となった。中でも標準化係数の値が高いものは第3因子「仲間づくり環境」(-0.188)、第6因子「将来への準備」(-0.184)であり、これらの要因が「充実度」に及ぼす影響が大きいようである。さらに、本学志望順位を独立変数に加えて分析したところ、この変数も1%水準で有意となった。本学の志望順位が高いほど小さい数字(1:第一志望～3:第三志望以下)となるので、係数の符号はプラスと

なっており、志望順位が高いほど充実度に影響を与えているが、標準化係数の大きさからすると、先に挙げた因子よりも小さい。一方で、第5因子「学生の雰囲気や関係性」、第8因子「施設や設備の充実」の2要因については有意差が見られない。「施設や設備」への評価は全般的に高いため、大学生活の充実度にはそれほど影響がないものと思われる。

次に、外部出身（附属以外）と附属出身それぞれの重回帰分析を行い、結果の比較を行った。全体としてみた学生生活因子と大学生活充実度の関係は上の通りであるが、因子分析結果でも明らかなように、附属出身者と外部からの入学者とでは、大学生活を評価する軸が少なからず異なっている。よって、二つを別々に分析することで、影響を与えている要因の違いを明らかにできる。独立変数には、それぞれの因子分析で得られた因子得点を使用している。

まず外部出身の分析では、調整済み決定係数0.224で、全体よりはやや小さいがほとんど変わらない。有意差がある変数は、標準化係数が大きい順に「学生の雰囲気や関係性」、「友人づくりの環境」、「クラブ活動」となる。特に前二者「学生の雰囲気や関係性」「友人づくりの環境」の係数は0.2以上であり、この2要因の充実度への影響が大きい。中でも、附属を含めた全体では有意差がなかった「学生の雰囲気や関係性」因子が、ここでは最も大きな影響をもつようになっている点が注目される。ともあれ、外部（附属以外）からの入学者にとって、友人づくりやその関係性という要因が大きな影響を与えていることが分かる。さらに「本学志望順位」変数を加えた場合、この変数に5%水準の有意差が見られ、志望順位が高いほど充実度も強くなる傾向にある。一方で、「教職員の対応」「知識・資格や教養の修得」「将来への準備」「学生マナー」といった全体の分析において0.1%水

表20. 「大学生活充実度」を従属変数とする重回帰分析（全体） n = 1291

	非標準化 係数 (B)	標準化 係数 (β)		非標準化 係数 (B)	標準化 係数 (β)	
教職員の対応（因子1）	-0.113	-0.137	***	-0.112	-0.135	***
知識技能や資格の修得（因子2）	-0.105	-0.128	***	-0.108	-0.130	***
仲間づくり（因子3）	-0.155	-0.188	***	-0.156	-0.189	***
クラブ活動（因子4）	-0.086	-0.105	***	-0.083	-0.101	**
学生の雰囲気や関係性（因子5）	0.000	0.000		0.003	0.003	
将来への準備（因子6）	-0.152	-0.184	***	-0.154	-0.186	***
学生のマナー遵守（因子7）	-0.103	-0.125	***	-0.093	-0.113	***
施設や設備の充実（因子8）	0.022	0.026		0.018	0.021	
本学志望順位	—	—		0.068	0.068	**
（定数）	1.919		***	1.805		***
調整済み R ² 乗	0.229			0.230		
F 値	48.075		***	43.767		***

*** : $p < .001$, ** : $p < .01$, * : $p < .05$

表21. 「大学生生活充実度」を従属変数とする重回帰分析（外部出身者）

n = 1053

	非標準化 係数 (B)	標準化 係数 (β)		非標準化 係数 (B)	標準化 係数 (β)	
教職員の対応 (因子1)	0.044	0.047		0.040	0.044	
友人づくりの環境 (因子2)	-0.200	-0.224	***	-0.198	-0.221	***
知識技能や資格の修得 (因子3)	-0.058	-0.064		-0.056	-0.061	
クラブ活動 (因子4)	-0.093	-0.097	**	-0.088	-0.091	*
学生の雰囲気や関係性 (因子5)	-0.246	-0.254	***	-0.238	-0.244	***
将来への準備 (因子6)	-0.048	-0.053		-0.044	-0.049	
学生のマナー遵守 (因子7)	0.028	0.028		0.028	0.028	
施設や設備の充実 (因子8)	0.012	0.013		0.006	0.006	
本学志望順位	—	—		0.059	0.060	*
(定数)	1.928	***		1.824	***	
調整済み R2乗	0.224			0.226		
F 値	39.310	***		35.061	***	

*** : $p < .001$, ** : $p < .01$, * : $p < .05$ 表22. 「大学生生活充実度」を従属変数とする重回帰分析
(附属出身者)

n = 243

	非標準化 係数 (B)	標準化 係数 (β)	
自立心や資格・教養の修得 (因子1)	-0.043	-0.049	
就職への準備 (因子2)	-0.050	-0.055	
友人づくりの環境 (因子3)	-0.231	-0.251	**
教職員の対応 (因子4)	-0.199	-0.215	*
学内環境の整備・印象 (因子5)	0.083	0.082	
学生のマナー (因子6)	-0.104	-0.102	
選択肢の多様性 (因子7)	-0.066	-0.063	
女性間の交流・活動 (因子8)	0.008	0.007	
(定数)	1.877	***	
調整済み R2乗	0.228		
F 値	9.914	***	

*** : $p < .001$, ** : $p < .01$, * : $p < .05$

準で有意だった変数が、附属を外した場合、有意でなくなっている。

附属出身者の重回帰分析の結果が表22である（附属は本学への進学が前提となっているので、本学志望順位を独立変数に加えていない）。変数自体が全体、外部とは異なるものの、最も標準化係数が大きく（-0.251）、有意差のある変数は「友人づくりの環境」であり、外部と同様に友人関係の因子の影響が強い。もう一つ有意差が見られる変数は、外部では有意差がなかった「教職員の対応」であり、その対応を高く評価しているほど、大学

充実度の評価も高くなっている。外部、附属ともに、よい人間関係を築けるかが、充実度の評価に深く結びついていることが分かる⁽⁶⁾。

4. おわりに

(1) まとめ

本研究で明らかになった点を、4つの質問軸に沿って簡単に振り返っておく。

まず、「武庫川女子大学への入学理由」については、「教育内容・環境」「知名度・伝統」「受験」「通学」の4因子によって規定されていることが分かった。附属出身者と外部出身者に分けて分析したところ、全体の8割を占める外部出身者は全体とほぼ同じ結果であったが、附属出身者では少し異なる結果となった。「教育内容・環境」と「知名度・伝統」は共通であるが、「周囲のすすめ」「教員の魅力」といった独自の因子が附属出身者で抽出された。保護者アンケートでも、「教育指導の環境」と「知名度・伝統」は共通しているが、他に「経済性・安心等の合理性」「附属・同窓」との因子が得られた。

お茶の水女子、奈良女子の既存調査との比較を行ったところ、国立女子大学では因子がよく似ていた。本学とも類似しているが、国立では「社会的評価（周囲のすすめ）」といった因子の他、お茶の水では「研究環境」が抽出されている（お茶の水の因子分析結果自体は明示されていない）。「教育環境」「知名度・伝統」「受験学力」の3因子は、どの大学の学生にも共通する因子である。

次に第二の「女子大学に入学した理由」の因子分析についてである。本学調査の全体では、「女性のための環境」「周囲のすすめ・イメージ」「女子大の有利さ」の3因子を抽出した。附属のみでは、これに加えて「女性としての教育内容」と命名した新たな因子を得た。お茶の水女子では、「女性のための環境」「学問環境」「戦略a：男性と競合しない優位性」「戦略b：別学である優位性」「時代的要因」の5因子であった。共通する因子は「女子のための環境」である。お茶の水の「学問環境」「戦略a」「戦略b」を構成する質問項目は、本学においては分散し、このような因子は形成されなかった。本学の「周囲のすすめ・イメージ」因子は、本学独自の質問項目からなる因子である。

第三の「武庫川女子大学における『女子大学の特徴』の当てはまり」の評価では、全体と外部出身者では「女子大の長所」と「女子大の短所」の二つにまとまったが、附属出身者では「女子大の長所」が「女性の主体性発揮」と「周囲からの支援・刺激」に分かれ、3因子を抽出した。

四番目の「武庫川女子大学での学生生活評価」についても、全体と外部出身者から抽出された因子は8因子で、同じ命名ができた（「教職員の対応」「友人づくりの環境」「知識・資格等の修得」「クラブ活動」「学生の交流」「将来への準備」「学生マナー」「施設・

設備の充実」)。基本的に附属で抽出された因子もこれと似ているが、因子を構成する質問項目の入れ替わりがあって、幾つか異なった因子命名となった。外部で抽出された「クラブ活動」因子は附属では見られず、代わって「選択肢の多様性」という因子が附属で抽出された。

さらにこの因子分析結果を独立変数とし、フェイスシートで尋ねた「現在の充実度」を従属変数とする重回帰分析を行ったところ、全体では「施設や設備の充実」「学生の雰囲気や関係性」を除いて有意差が見られた。しかし外部出身者と附属出身者に分けて重回帰分析を行ってみたところ、違いが見られた。外部のみでは全体と因子構成は変わらないものの、有意差のある因子が「友人づくりの環境」「学生の雰囲気や関係性」および「クラブ活動」のみとなり、他の因子では消えた。さらに、全体で有意差が出なかった「学生の雰囲気や関係性」が最も大きな影響を与える因子となった。附属では、「友人づくりの環境」と「教職員の対応」のみが有意となった。いずれの分析でも、人間関係のあり方、その満足度が、学生生活の充実度に大きな影響を与えていることが示された。

(2) 課題

おわりに、幾つか今後の課題を挙げておく。まず、この分析では、女子大学を評価する観点を提示したに過ぎない。よって、こうした観点をもとに女子大学での教育研究全般、学生生活を振り返る必要がある。その上で、更なる教育研究活動の充実には何が必要か、学生の人間関係やコミュニケーションを高める支援の仕方はどうなのかといったことを、現在の学生の目線で考えていくことが大切なのであり、ここで得られたことはきっかけに過ぎないという点である。分析だけにとどめず、学生への教育実践、女子大学としての魅力づくりとどう結び付けていくのかは大きな課題である。

次に、本分析は本学のデータと国立2女子大学の既存データのみからなされたものであるので、ここで得られた結果は他の女子大学にあてはまるとは限らない点に留意する必要がある。女子大学の個性、特性は多様であり、女子大学の特性を抽出するのであれば大学数を増やした分析が不可欠である。ここで示した質問肢を使つての分析、各大学にふさわしい新たな質問肢を加えた分析、複数の女子大学との共同研究などの展開が待たれる。さらには、共学大学における女子学生との比較検討も課題として挙げておく。

最後に、本学データから見えてくる課題も挙げておく。一つは附属出身者と外部出身者との評価の違いについてである。本研究の分析において、外部と附属では評価の観点において少なからず異なりが見られた。これはどういう要因によるものなのか、大学での人間関係の実際や附属からの連続性、あるいは大学での支援や援助の仕方、附属との連携のあり方など、興味ある課題である。もう一つは、保護者アンケートと学生アンケートの有機的なつながりをどうつけていくのかという課題も残された。単発的、打ち上げ花火的に保

護者や学生にアンケートを取るのではなく、これらアンケートをどう戦略的に位置づけ、その評価から実践をいかに改善していくのかといったループの中に位置づけていかなければならない。大きな課題である。

注

- (1) 各大学への入学理由について尋ねる調査は、「学生生活調査」などとして行われている。しかしながら、それらの結果は学内報告にとどまり、紀要に掲載されることもあるがあまり外に出されることはない。「女子大学」への入学理由についての調査研究で、最もまとまったものがここで取り上げているお茶の水女子大学と奈良女子大学による調査報告書（お茶の水女子 2001、奈良女子 2003）である。調査が実施された2000年頃、国立大学の法人化やその整理・統合が叫ばれるようになり、自己点検・評価の実施も課されるようになった。中でも女子大学はその存立意義が問われ、二つの国立女子大学は共同での調査（質問項目が揃えられている）を実施した。新制の1期卒業生から直近の卒業生までを対象とする大規模な調査である。この他の女子大学に関する調査としては、岡本道雄らが実施した神戸女学院大学調査（岡本 1972）、青井和夫らによる津田塾大学調査（青井 1988）などを挙げることができる。

大学生活については「学生生活調査」の他、学生文化の研究などが行われている。代表的なものとしては武内の一連の研究（2003など）が挙げられる。しかしながら、女子学生の学生文化や行動特性については調査・分析されていても、女子大学のみを対象とした量的調査・研究は、各大学の学生生活調査を除くと非常に少ないと思われる。

- (2) 「自宅からの通学」や「学寮の利用」の項目からなる第4因子を「通学」と命名したが、別の見方をすると「経済性」との解釈もできる。後にみるお茶の水女子大学の分析では、同様の項目からなる因子を「経済合理性」と命名している。
- (3) 保護者アンケートでは、保護者による「武庫川女子大学への評価」についても尋ねた。娘の3年半の本学での学生生活を踏まえて、保護者がどのような観点で本学を評価しているかを知るためである。単純集計については既に報告しているので（安東他 2007）、ここではその因子分析結果を掲載しておく（次頁の別表1）。

因子分析の結果、5因子が抽出された。第1因子から順に、「教育指導の評価」「外的環境の評価」「女子大の肯定評価」「学生の態度評価」「女子大の否定評価」と命名した。

別表 1. 保護者による「武庫川女子大学への評価」の因子分析結果

	教育・指導の 評価(内容)	外的環境 の評価	女子大特性 の肯定評価	学生の 態度評価	女子大特性 の否定評価
1 教員は熱心に授業や指導を行っている	0.751	0.036	-0.203	0.035	0.006
6 きめ細かい就職指導を受けることができる	0.643	-0.051	0.007	-0.018	-0.047
2 資格や免許の取得に熱心に取り組んでいる	0.611	-0.044	-0.089	0.034	0.035
8 しっかりとした学生指導が行われている	0.507	0.123	0.123	-0.057	-0.045
20 入学した頃より、大学への印象はよくなった	0.375	-0.094	0.255	-0.137	0.091
10 守衛やセキュリティシステムなどの安全管理がしっかりしている	-0.093	0.688	0.000	0.073	-0.056
9 情報処理教育が充実している	0.168	0.605	-0.140	0.054	-0.043
5 掃除が行き届き、施設が清潔である	-0.098	0.550	0.052	0.038	0.065
3 施設が充実している	0.053	0.482	0.111	-0.238	0.058
7 学内のクラブ活動が活発である	0.019	0.261	0.162	-0.016	0.035
13 女性だけの学生生活なので、親として安心できる	-0.149	-0.005	0.644	-0.023	0.002
17 女子大学で、何事も女性が行うので、自主性・主体性が身につく	-0.073	0.053	0.519	0.157	-0.050
12 幅広い教養を身につけることができる	0.267	0.009	0.368	0.058	-0.028
14 地域懇談会など、大学の情報を積極的に提供してくれている	0.174	0.043	0.354	-0.141	0.104
4 女性を意識した授業、女性として役立つ授業が多い	0.218	0.089	0.264	0.139	-0.020
16 マナーの悪い学生が多い	-0.015	-0.072	0.015	0.701	0.043
11 授業で私語が多い	-0.054	0.079	-0.041	0.606	0.095
18 学生にとって興味深い授業が多い	0.178	-0.024	0.240	0.403	-0.071
19 異性が周りにいないのは、不自然だと思う	-0.033	0.003	0.073	-0.009	0.661
15 男子学生がいないので、学生生活に活気がない	0.064	0.016	-0.078	0.167	0.635

因子抽出法：主因子法 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

因子相関行列

因子	1	2	3	4	5
1	1	0.609	0.645	0.287	0.007
2	0.609	1	0.573	0.409	0.157
3	0.645	0.573	1	0.336	0.040
4	0.287	0.409	0.336	1	0.395
5	0.007	0.157	0.040	0.395	1

- (4) 「一般に『女子大学』について次のような意見があります。こうした意見が『武庫川女子大学』についてあてはまると思いませんか」との質問に、「4. かなりあてはまる」～「1. まったくあてはまらない」の4件法で回答を求めた。
- (5) 「大学生活を振り返って、全体として充実していたと思いませんか」と尋ね、「1. 充実」～「5. 充実せず」の5件法で回答を得た。数字が低いほど充実度が高くなる。
- (6) 附属高校出身者は、幾つかの点で外部からの進学者と異なっている。附属からは毎年卒業生のほとんど（約90%、約400名）が本学に進学し、そのほとんどが4年制への

入学者である。附属出身者は大学入学者の20%弱を占める。

附属高校卒業者の特色として、その8割が中学からの入学者であり、彼女たちは入学までに6年間を同じ環境の中で過ごすので、そこでつくられた友人関係が大学に持ち越される。また、武庫川学院は「中・高・大一貫教育」の方針に従い、中学・高校と大学との連携・交流を図っており、大学施設の利用はもとより、大学の教員が高校で講義する、大学の講義を聴講するといった交流を活発に行っている。こうした背景が、大学生活への適応や友人関係づくりなどにおいて、附属以外の出身者とはかなり異なっており、違いを生み出していると考えられる。

附属出身者からの評価については、外部出身者と異なる点も多く、その要因についてはさらなる検討が必要となる。

引用・参考文献

- 青井和夫編 1988、『高学歴女性のライフコース』勁草書房
- 安東由則・藤村真理子・難波満里子 2006、「『女子大学』に関する女子学生の意見調査」『研究レポート』（武庫川女子大学教育研究所）36号、37-84頁
- 安東由則・藤村真理子・難波満里子 2007、「武庫川女子大学に関する保護者への意見調査」『研究レポート』（武庫川女子大学教育研究所）37号、155-196頁
- 岡本道雄・國府剛・磯部卓三 1972、「女子大生の大学観」『論集』（神戸女学院大学）18巻3号、87-137頁
- お茶の水女子大学 2001、『卒業生・修了生のライフコースと国立女子大学の将来像に関する調査結果報告書』お茶の水女子大学
- 武内清編 2003、『キャンパスライフの今』玉川大学出版部
- 奈良女子大学 2003、『奈良女子大学卒業生・大学院修了生のライフコースと国立女子大学の将来像に関する調査結果報告書』奈良女子大学
- 友田泰正・安東由則編 2007、『「女子大学の存立意義に関する調査研究」報告書』武庫川女子大学教育研究所